

蕎麦のルーツを探る

～ 北インド・ラダック地方の蕎麦探索～

江戸ソバリエルシク 寺方蕎麦研究会 & 江戸ソバリエ ウンナンの会

編集:ラダック地方蕎麦探索参加者

小林照男・平林知人・水上 博・高橋 正・中村幸子・横山明子・砂野 信
吉岡正志・木暮郁代・佐藤悦子・赤尾吉一・高橋龍太郎 稲澤敏行
協力:NPOジュレーラダック(代表:スカルマ ギュルメット)

北インド・ラダック地方に伝統的な蕎麦食文化があることを知り、同地方の蕎麦を探索すると共に日本の蕎麦食を紹介して地元民との交流を計りましたが、2015年から2017年の3回に亘りラダック地方の各地を巡った内容を報告します。

ラダック地方の概要

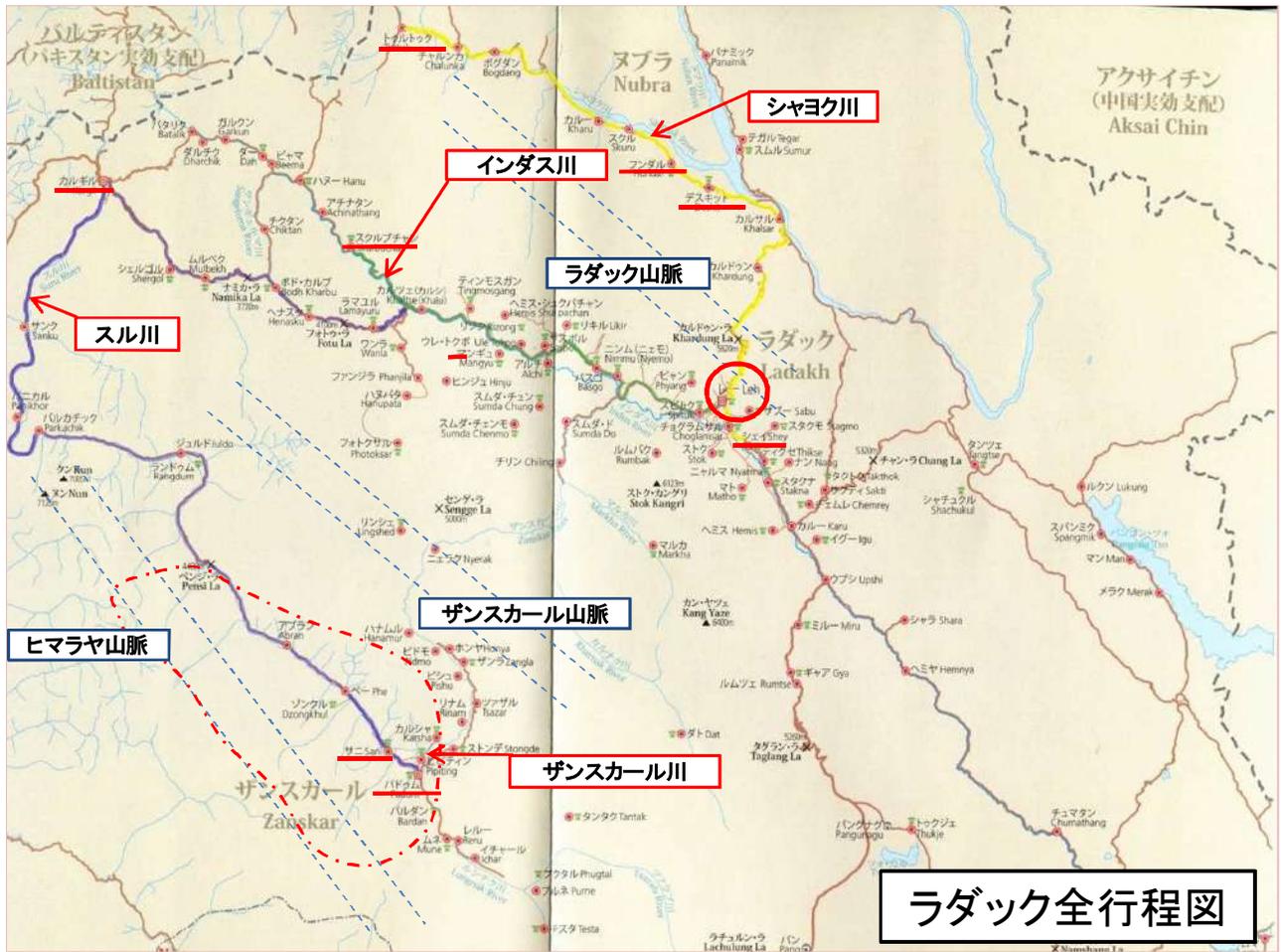
ラダックは、ヒマラヤ山脈で隔離されたインド本国、パキスタン、中国に囲まれた山岳地域ですが、歴史的に国境紛争の絶えない所ですから外国人の入域が1975年に限定的に許されてから全地域の入域が許されたのは2010年以降でしたが、現在も国境沿いや主要地に軍隊が駐留している状況です。

軍隊の事もあって山峽な地域でも道路は総て舗装されています。

ラダック地方の人々は穏やかな性格で、基本的にインド本国人とは違っている事もあるが、宗教上(チベット仏教)の違いもあるように思われます。



ラダック地方はヒマラヤ山脈北側のザンスカール山脈、ラダック山脈、カラコルム山脈に囲まれた高地で、山脈沿いの各河川に沿った村々で生活しています。



3回に亘る「蕎麦探索」は、インダス河沿い(緑色:第1回)、シャヨク川沿い(黄色:第2回)、ショー川とザンスカール川沿い(紫色:第3回)の主要村落で行い、概ねラダック地方全体を巡りました。

このような山峡地域にありながら、紀元前8千5百年頃には狩猟民族(遺跡発掘中)が居住していて、紀元前3千年頃の宗教遺跡もあり、紀元前数百年には初期仏教が確認されています。また、7世紀にチベット民族定着 → 8世紀には各地にゴンパ(僧院)を設立されています。

主要都市(レー)の標高は3,500mで各村落は2,700m~3,700mの高地にあります。

夏季(5~9月)の日中は30℃(湿度35%)近くになりますが冬季(10~4月)は氷点下20℃と厳しい地域です。特に冬季のカルギール~ザンスカールは降雪のため道路が使えずザンスカール地域は閉ざされます。

ラダックは基本的にチベツツ仏教徒ですが歴史的な成り立ちからイスラム教徒も多く存在していますので、主要農作物や牧畜の実情を併せ主要村落毎に纏めました。

主要村落	宗教		主要農作物と牧畜		
	チベット仏教徒	イスラム教徒	大麦	蕎麦	牧畜
レー(都市)	○	×	×	×	×
スキュルプチャン村	○	×	○	○	×
ディスキット村	○	×	○	×	×
フンダル村	○	×	○	×	○
トルトック村	×	○	○	○	×
カルギール(都市)	×	○	×	○	×
アティン村	○	×	○	○	○
パドウム村	○	×	○	×	○